

5 推進プログラム

5-1 推進プログラムの位置づけと役割

施策の実施にあたっては、個々に具体化に向けて取り組むのではなく、その目標の達成に向けて戦略的に取り組むことが重要です。

推進プログラムは、施策を重点的、効果的にすすめる総合的な取り組みと、その展開手順を示し、施策全体を体系的に具体化していくものです。

また、施策を具体的に展開する際の、行政、市民、事業者などまちづくりに係わるさまざまな主体が連携、連動して施策を総合的にすすめるための役割を担うものです。

推進プログラムの位置づけ、役割をまとめると次の点を挙げることができます。

1) 施策の相乗効果の発揮に向けたプロセス

推進プログラムは、単独では効果が薄い施策あるいは、一体的、総合的にすすめることで初めて相乗効果の得られる施策などを連携・連動してすすめ、波及効果の高い事業実現をはかるもので、施策の総合的な展開に向けたプロセスを示すものです。

2) 直面する課題への対応と段階的なプロセス

推進プログラムは、既に取り組んでいる施策や新たな課題への対応を取り込んだ施策を含め、プログラムごとに目標の実現に必要な施策群を構成しています。これら施策を段階的に展開していくことにより、目標の実現をはかるものです。

また、継続的に市民のまちづくり、まち育てに対する理解と関心を募るため、短期的な施策と中長期的な施策を、わかりやすく関係付けて説明するための青写真ともなるものです。

3) 施策推進の工夫と効果的施策展開のプロセス

推進プログラムでは、手がける施策を順序だて、相互に関係付けることにより、効果的な施策展開をはかるものです。

さらに、その手順を明確化することにより、限られた資金や人的な資源を有効に活用するための指針となるものです。

なお、プログラムで示す各取り組みのステップは、概ね次の期間を想定しています。

ステップ 1 : 概ね 5 年程度で実現をめざすもの (短期的対応)

ステップ 2 : 概ね 5 年から 10 年程度で実現をめざすもの (中期対応)

ステップ 3 : 概ね 10 年以降での実現をめざすもの (中長期対応)

5-2 推進プログラムの概要

1) 個性豊かで魅力的なまちづくりプログラム

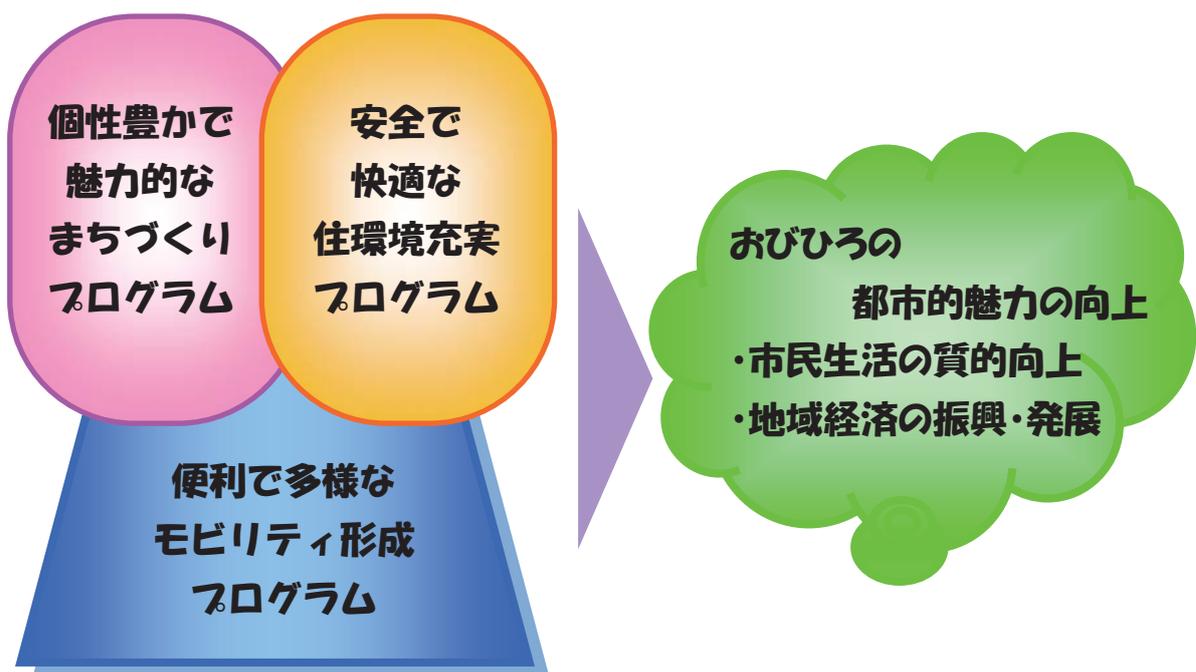
中心市街地の活性化を推進し、都心エリアの魅力・にぎわいを再生するとともに、帯広の豊かで魅力的な自然環境を活かし、帯広の森を核とした緑のネットワークの形成など、都心、市街地及び市街地近郊エリアとの連携による帯広ならではの個性と魅力ある都市空間の形成をはかる取り組みをすすめます。

2) 安全で快適な住環境充実プログラム

誰もが住みなれた地域で安全・安心に暮らすことのできる居住環境の形成をはかるとともに、住み替えサポートシステムの構築などにより、都心エリアと市街地エリアとの住み替え促進など居住形態の選択機会の充実をめざします。また、土地利用と交通施策の連携により歩いて暮らせる地域生活拠点の形成をはかる取り組みをすすめます。

3) 便利で多様なモビリティ形成プログラム

自動車交通に過度に依存したまちから、徒歩、自転車などの身近な交通手段の見直し、多様な移動手段を選択できる環境整備に向け、誰もが安心・快適に利用できる環境にやさしい交通サービスの確立をめざします。



5-3 個性豊かで魅力的なまちづくりプログラム

1) プログラムの展開

○ステップ 1

現状の市街化区域を基本として市街化区域の拡大を抑制します。

市街化区域の拡大を抑制することにより農地などの自然環境の保全をはかるとともに、都心エリアへの大規模集客施設の適正立地を誘導し、商業・業務機能の充実を強化し広小路アーケードの再生や回遊ネットワークの形成など中心市街地活性化基本計画の施策を着実にすすめるとともに、都心エリアでの合同庁舎建設構想に向けた協議をすすめ、公共公益施設の機能充実をはかります。

また、緑の核・拠点として位置付けられる帯広の森を利活用、育成管理するために拠点整備を行うとともに、自然観測会、体験学習会などの実施により、市民と連携して森の育成、緑化の推進をはかります。

○ステップ 2

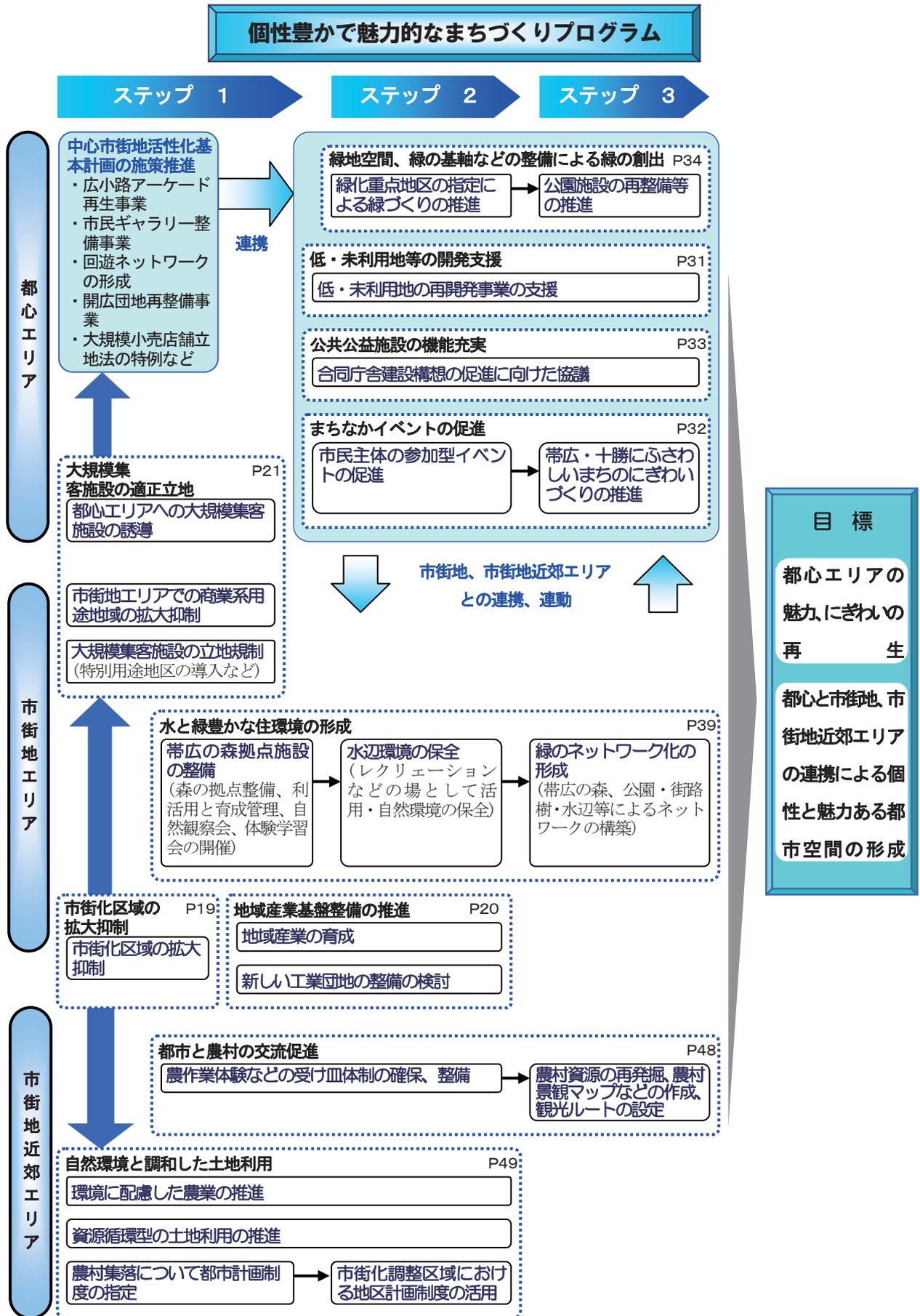
中心市街地の活性化施策と連携して、空き地、空き店舗などの低・未利用地での再開発事業などの支援、市民が主体となる参加型のまちなかイベントの支援・促進をはかります。また、中心市街地を緑化重点地区に指定し、商店街、事業者が主体となった緑づくりをすすめます。

また、環境に配慮した農業を推進するとともに、農作業体験などの受け皿体制の確保、整備し、都市と農村の交流をすすめます。

○ステップ 3

公園の再整備など緑の基軸を中心とした緑の創出による都市空間の魅力づくり、市街地、市街地近郊エリアとの連携した帯広・十勝にふさわしいまちのにぎわいづくりをすすめます。

市民協働により帯広の森、駅周辺や水辺などを一体的に結んだ緑のネットワーク化をすすめ、個性と魅力ある都市空間形成をはかるとともに、農村資源の発掘と活用をすすめ、都市と農村との交流基盤の形成をはかります。



5-4 安全で快適な住環境充実プログラム

1) プログラムの展開

○ステップ 1

まちなか居住プラットフォームを市民、事業者、行政の協力により設置し、勉強会、懇談会、ワークショップの開催やモニタリング調査などを行い、まちなか居住に関する市民、住民ニーズを把握し、帯広にふさわしいまちなか居住の可能性、条件について検討します。

まちなかの低・未利用地に関しては、地権者などを対象に再開発制度など、適切な土地・建物の更新高度化に向け、制度・手法についての情報提供や相談体制を充実し、その利活用を促進します。

市街地エリアでは、生活利便施設の適正な配置に併せて、低・未利用地の利活用促進やユニバーサルデザイン住宅の普及促進、建物やライフラインの耐震化などをすすめ、安全で利便性、快適性の高い住宅、住環境を整備します。

○ステップ 2

市民、住民の多様なニーズを踏まえ、高齢者住宅、賃貸住宅など各種住宅供給をはかるとともに、空き店舗、空き事務所など既存施設の利用目的変更による住宅供給をすすめ、優良ストックを活用した多様なまちなか住宅を供給します。

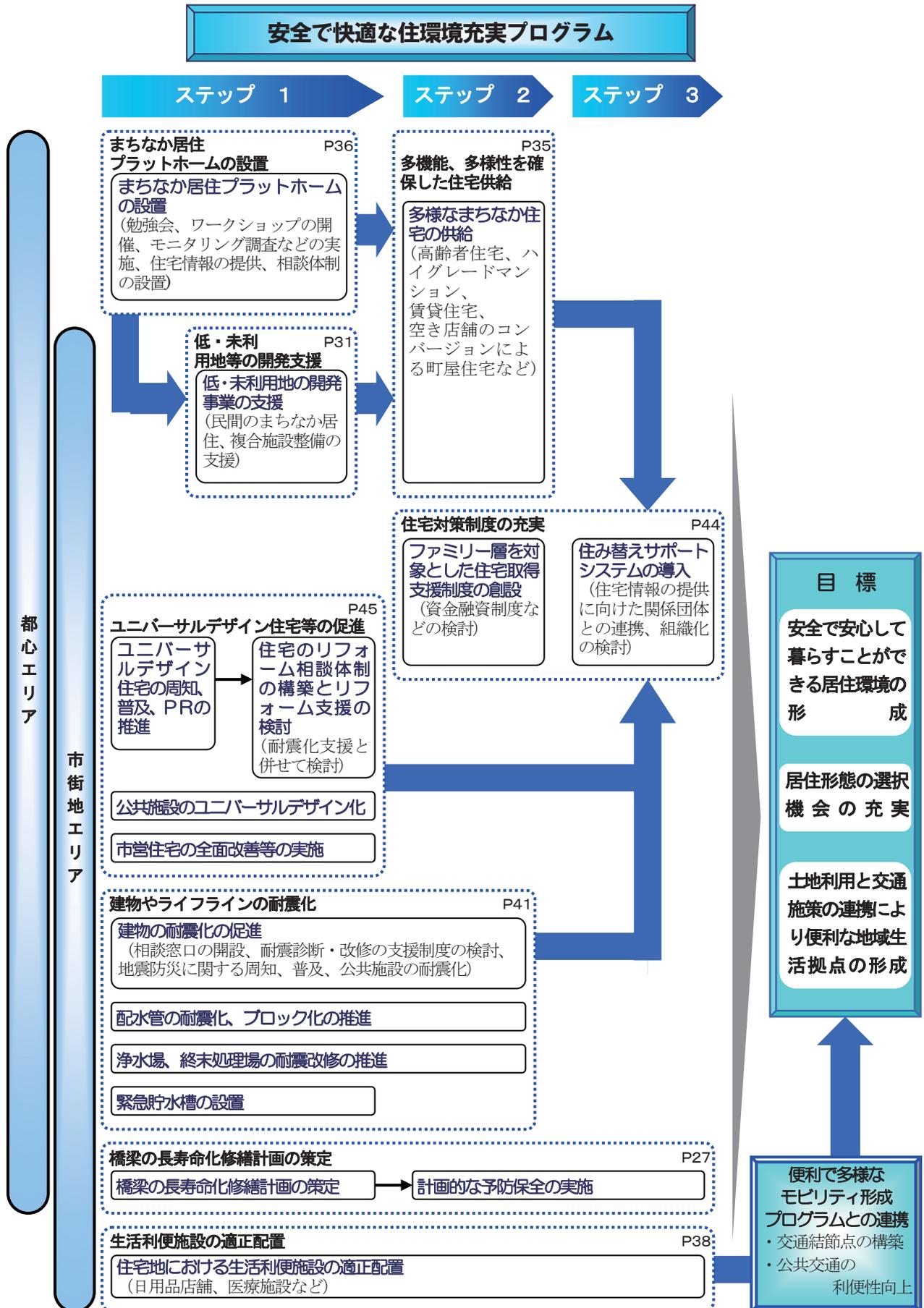
また、安全で安心して暮らすことができる居住環境の形成をすすめるとともに、若年世代の住宅取得を支援し、市街地エリアにおける住まい手の更新を促し、地域コミュニティの活性化をすすめます。

○ステップ 3

全市にわたる住み替えサポートシステムを構築し、関係機関の組織化、連携化をはかり、市民が都心エリアや市街地エリアなど、ライフスタイルに応じて自由に住宅、住環境を選択できる環境づくりをすすめます。

また、優良な中古住宅の流通の促進、円滑化をはかり、ストックを活用しつつ安価で質の高い住宅選択機会を拡充します。

土地利用施策と交通施策の連携により、歩いて暮らすことのできる住環境づくりなど地域生活拠点の機能や魅力を充実、強化し、市街地エリアの住宅市街地の住環境の改善、向上に取り組みます。



5-5 便利で多様なモビリティ形成プログラム

1) プログラムの展開

○ステップ 1

市民や事業者の合意を得ながら、道路幅員、構造など、都市計画道路の見直しをすすめます。自転車・歩行者の利用環境の調査を実施し、自転車と歩行者の走行空間の分離、駐輪装置の設置などをすすめるとともに、自転車利用の際の交通ルール、マナーの周知徹底など、交通安全教育を推進します。

また、バス路線の採算性、利便性を含めて公共交通のサービス水準の検討を行い、路線バスの定時性の確保など公共交通の利便性向上をはかります。

○ステップ 2

事業の選択と集中による都市計画道路の効率的な整備、自転車と歩行者利用環境の整備をすすめます。

バス事業者の理解と協力により、低床バス、ノンステップバスなど乗り降りしやすいバス停、バス待ち環境対策を実施するとともに、ダイヤモンドバス、福祉タクシーなど公共交通機関の多様化をすすめて公共交通の利便性向上を促進します。

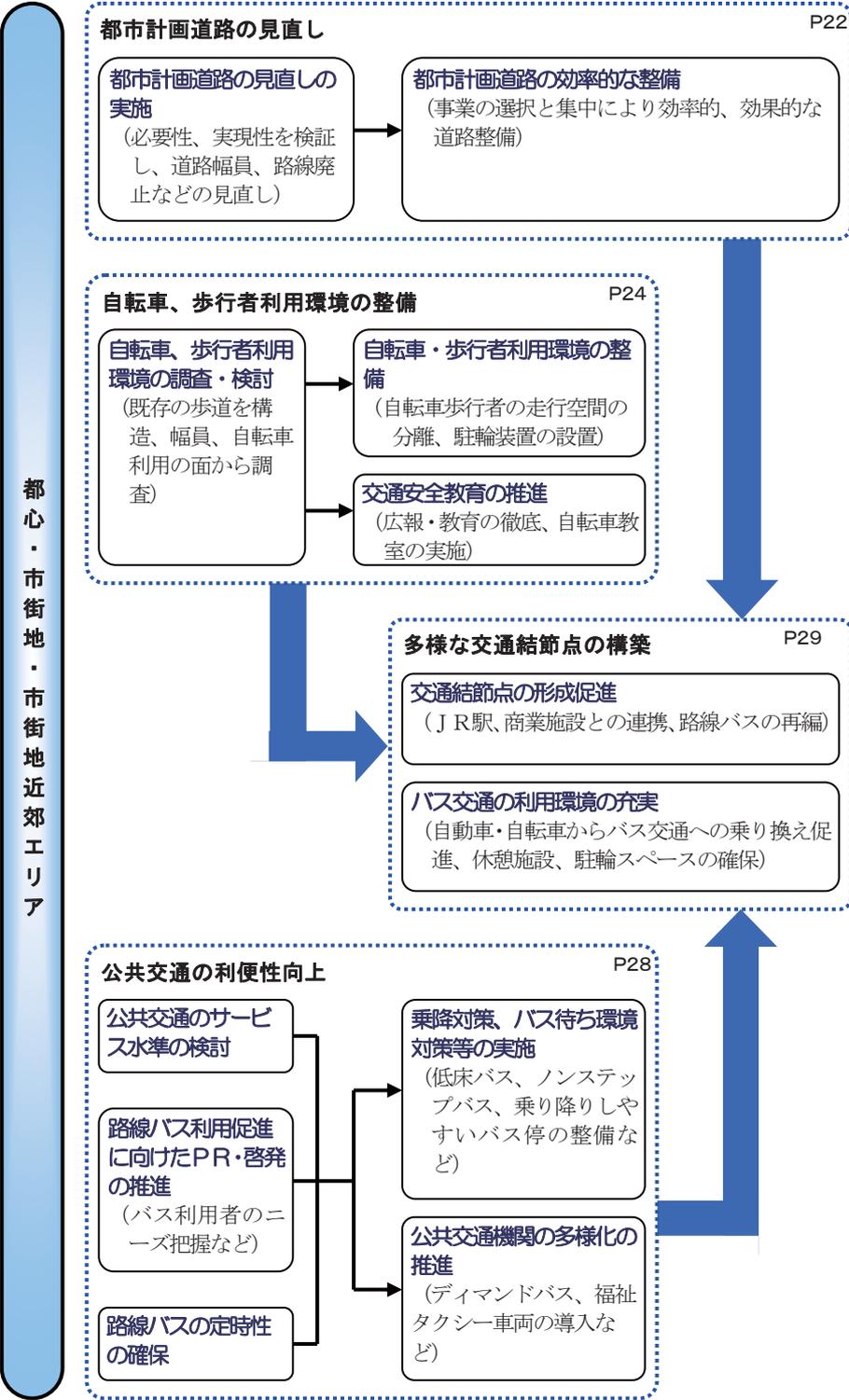
○ステップ 3

JR駅及び沿道の大型商業施設などと連携して交通結節点を構築し、事業採算が確保されるように、バス路線の再編、利便性の向上をはかります。

交通結節点を中心として休憩施設、駐輪スペースなどを確保し、バス交通の利用環境の充実をはかり、自動車・自転車からバス交通への交通手段の転換を促進します。



便利で多様なモビリティ形成プログラム



目標

誰もが安全、快適に利用できる環境に優しい交通サービスの確立

移動手段の多様化